

国際会議における日本の河川の展示の企画と海外での反応

東京大学大学院総合文化研究科 正会員 清野聡子
 (財)リバーフロント整備センター 正会員 大嶋吉雄・○後藤勝洋
 (財)リバーフロント整備センター 増岡宗朗

研究の目的： 国内外で開催される国際会議では展示会場が設置され、様々な主体によってその会議の内容に沿った展示が企画、出展される。パネル展示による土木技術の視覚的伝達に関しては、技術系の内容が中心なため、そのテーマ自体の説明が大半である。専門性の高い会議では、国が異なっても背景を共有するため、伝達が比較的容易である。ところが、広いテーマを扱い、一般人も含めて多分野の参加者が想定される国際会議の場合には、社会文化的な背景が異なる見学者への対応の方法論は十分整理されていない。

本研究では、2005年にメキシコで開催された「第4回世界水フォーラム」の場において、「日本の河川」について「自然再生」と「水と交通」の2テーマについてパビリオンでブース展示を行い、世界の水関係者に説明を行い、質問を受けた。パネル展示は、一種のポスターセッションと考えられ、企画関係者が直接、海外の見学者との直接対話を行ったことになる。この事例をもとに、日本の河川の展示の企画での論点、留意点、課題、その解決の提案を行う。

内容： 世界水フォーラムは、世界的な水問題を議論する国際会議である。産官学民の多様な主体の参加を前提としており、セッションのテーマも多分野にわたる。第3回は日本が開催国となり、2003年3月に京都・滋賀で開催された。第4回世界水フォーラムは、2006年3月にメキシコ国首都のメキシコ・シティで開催された。国際会議場のバナメックスセンターに「水のエキスポ」と銘打った展示空間が設けられ、各国のブースが設けられ、国別にスペースが配置された。2006年3月16日（木）～21日（火）にわたり、セッションと並行して展示が行われた。25カ国 340の団体が出展（うち53%がメキシコ国内、47%がそれ以外）であった。本稿では、日本国政府の国土交通省河川局（水と交通、自然再生）、同港湾局（水と交通）が出展者となっているブースを対象とした。「水と交通」の展示目的は、“日本の内陸水運を、歴史と変遷、現況、取り組みをまじえて紹介し、内陸水運の意義、重要性を世界各国に広く情報発信する”であった。A0版のグラフィックパネルを10枚、和船模型1体、屏風複製1隻を展示した。「自然再生」は、“日本の自然再生の技術開発や実施の現状を、世界の自然再生や水問題の関係者に紹介する”であり、A0版のグラフィックパネルを14枚を用いた。また、日本列島の水循環に関する映像の上映ブースを設け、北海道から沖縄までの全国の地方整備局、北海道開発局、沖縄総合事務局の10地方から、各地の水循環をテーマとした9分の映像を集めた映像集と、フォーラムで開催された水の映像祭への出展作品を大型液晶モニターで上映した。出展の企画・製作を行った関係者が自ら、パネルの説明に立った。さらにメキシコの日系人や留学生を中心としたスペイン語の解説者のチームを組み、多言語への対応を行った。

展示への質問と応答を表-1に示す。見学者は開催国のメキシコが中心であった。日本からの出席者の大半は、産官が中心であったが、教師、学生など教育関係者が多い特徴があった。パネルは視覚情報であったため、画の内容に対する具体的な質問が多かった。特に、水問題が多発しているメキシコ・シティの現状や歴史という視座と、日本における対応に関する質問が多かった点が特徴的である。日本のパネルは評判が良く、現地の大学や博物館の資料としたいとのオファーも多かった。日本の具体的なイメージが、日本人や通訳との対話をもとに醸成された点も重要である。

結果と考察： “視覚情報の多用”と“多言語へ対応”の重要性が痛感された。国際会議ということで、パネルの説明言語は汎用性が高いと考えられる英語としていたが、スペイン語のパンフレット、通訳・解説者も準備した点に意義があった。世界水フォーラムのセッションは有料だが、水のパビリオンは入場無料であり、水問題に関心の高い学や民の関係者が世界的な情報を得られる好機として活用していたと考えられる。出展

者の日本人にとっても、文書、ネットやメディアからの情報に比べて、よりリアルな各地の水の状況を、対話的に知見を得られる好機であった。アンケートではなく、見学者個人の表情を見ながら関心の高い点、疑問点に対応する方法論のほうが、より相手も様々な話題での情報交換ができ、短時間ではあるが、水という共通テーマによる“国際交流”が可能となったと考えられる。

国際会議での出展ではセッションが中心になりがちである。しかし、世界水フォーラムのような多様な参加者が見学する機会が開かれている国際会議が、産官学民の「水の外交の場」であるとすれば、このようなテーマを共有する直接的な国際交流“の場としての展示ブースの活用はより重要視されるべきであろう。相手国への発信だけでなく、出展者の日本人の意識向上やコミュニケーション能力の育成になる点も重要である。さらに、VIP から学生への対応には、説明者のキャリアや年代、性別の幅も広げた対応が効果があった。

また、社会文化が異なる人同士のコミュニケーションでは、視覚情報が非常に重要である。さらに、雑然としたブースの列のなかで、存在感を際立たせ、多くの見学者を得て、的確に情報を伝えるためにも、パネルや空間構成、動線設計には、十分な留意がなされる必要がある。本事例では、科学系の教育を受け、芸術系、電子系の発信が行える人材が不可欠であった。科学技術振興や科学メディアにおいても、理科・文科・芸術の総合的な人材やインタープリターの育成が急務と言われているが、本事例のような、科学技術の専門性の高い内容の制作物では、このような人材の確保が重要である。本研究は、出展者である国土交通省河川局・港湾局の国際発信への熱意とご尽力に支えられた。パネルのデザイン・構成は、(有)ストリームグラフの大崎博之氏らの尽力による。ここに記して感謝申し上げる。

表-1 「川の自然再生」「水と交通」展示会場における来訪者との質疑応答

展示物	表題	来場者の質問、感想、コメント	展示ブーススタッフの応答、対応	質問者
「川の自然再生」パネル	「日本列島～水満ちる国」	モンスーン気候の水が豊かな国土における問題。	台風、梅雨等の大雨に対する治水対策や渇水対策等。	
	「国を超えて水の知恵を合わせる」	南禅寺の水遣橋は日本人が設計したのか。	日本人技術者(田辺朔郎)の設計。工事は1889年に完成。	
	「水を制した」	大規模なダムを多数建設している目的。	治水対策、渇水対策、水力発電等。	
	「水を汚した」	多摩川の汚濁が生じた原因。	生活排水、工業排水等が主要な原因。現在は主に生活排水。	
	「水を蘇らせ、人を展した」	水質を規制する法律。	1960年に制定された水質汚濁防止法(2005年改正)。	
「水と交通」パネル	「舟運のネットワークに被われていた日本列島」	日本の川の水はきれいに見えるが、どの程度か。飲めるか。	直接は飲まないが、上水道の水源のほとんどは河川に依存。	
	「大河川と大平野に走る水路網」	写真は、国土交通省の事業であるか。	国土交通省や地方自治体。	
	「江戸～目黒屏風」	メキシコ沿岸部でも舟運は盛ん。		メキシコ人
		今は埋め立てられたが、メキシコシティも水路や川が多かった。		メキシコ人
		メキシコシティは湖の中にある島に都市を作ったことが起源。屏風から日本も同様であると感した。今は埋め立てられたが、メキシコシティも水路や川が多かった。	屏風には河川や人々が細かく描かれている。画家のイメージで鳥瞰図を描写。東京の空撮写真を紹介。その姿貌振りに驚いていた様子。	50代メキシコ人女性 30～40代のメキシコ人男性2人 30～40代のメキシコ人男性2人
	「川を行き交う船 その多様性」	各種船の大きさ。	船によって大きさは異なり、同一名の船でも大きさに幅がある。	30～40代のメキシコ人男性2人
	「水の都の舟と川 百万人の三百年」	空撮写真は現代であるか。	現代。	
	「持続可能な社会を担う舟運」～河川網を利用した廃棄物輸送ネットワーク	現在のネットワークの稼働状況。	稼働中。	
		清掃作業所までの運搬方法。	車による。	
	～未来の船-電磁力によるジェット推進	現在の商業的に就航状況。	まだ研究段階。	
		プロトタイプで終わっている問題点。	膨大な電力が必要。	
		この船の研究は終了したのか。	1993年に完成。現在、動力の性能改善の研究中。	40代 メキシコ人男性
		関連資料はあるか。	超電導の技術論文を渡した。	
	～都市の危機を舟運が救う	阪神、淡路大震災はいつ発生したか。	1995年。寸断された陸上交通に替わり、舟運が救援活動・物資供給に貢献。	40代 メキシコ人男性
	～水が甦り、人が憩う	屋形船とは。	プレジャーボートの一種。中で天ぷらを食べたり、日本酒を飲んだり、花火を見るなどパーティーを行う。	
	嵐山の水の色は非常にきれいである。			
	天神祭りとは。	船で神様を運ぶ祭り。		
和船模型	「江戸前葛西荷足船」	この模型は手作りであるか。	手作り。非常に素晴らしいと感銘を受けていた。小さな子供運れたたので特別に触らせてあげようとしたが、壊れると思っただけで触れなかった。	
絵葉書印刷サービス		江戸～目黒屏風、隅田川・日本橋・多摩川の浮世絵、荒川花火、京都嵐山・井の頭公園の写真の人気の高い。		10代～60代の男女 子供の来場者はほとんどなし
		現代の東京の空撮写真を求められることもあった。「大都市(メトロポリス)」としての景観が欲しいとのこと。		
「水と交通」展示全般		一人でも欲しいという来場者が多数。		
		日本の国土の大きさはメキシコと比べるとどのくらいか。	日本の面積はメキシコの1/5。	メキシコ人
		日本パビリオンは水のEXPO会場の中で最も広い。日本国としてPRしたい意思があるのか。		20代 メキシコ人女性
		世界水万博(2008年 スペイン・サラゴザ開催)に日本も参加頂きたい。	国土交通省河川局等へ正式な申請をするよう依頼。	世界水万博 エグゼクティブ・ディレクター
		世界の水関連ネットワークを構築するための国際会議に日本も参加頂きたい。	国土交通省河川局等へ正式な申請をするよう依頼。	H2 World Water Center (Virginia)代表
		メキシコ北部では、水不足が深刻。日本の技術に期待しており、具体的な話をしたい。	日本パビリオンの受付に案内。	部族代表者
		日本史を勉強しており、江戸や河川の変遷、現在の取り組み等、大変興味深い。		20代 メキシコ人女性
	教材として校内に展示するため、舟運パネルを提供したいだけではないか。	目的以外で使用しないことを約束して提供。	メキシコの大学教授	